

平成 30 年 6 月 12 日現在

機関番号：34310

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26245064

研究課題名(和文) 社会ネットワークに埋め込まれた価値観構造：国際比較・パネル・スノーボール調査研究

研究課題名(英文) Panel survey on human value structure embedded in social networks

研究代表者

池田 謙一 (Ikeda, Ken'ichi)

同志社大学・社会学部・教授

研究者番号：30151286

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 30,700,000円

研究成果の概要(和文)：第1に、アジアンバロメータ国際比較調査(ABS)第4波の日本全国調査を2015年度に実施し、国際規模の比較の試みとして、人々の行動や思考の背後にある制度や文化のもたらす制約性を明らかにするとともに、そうした制約や限定を越えて共通してみられる人間行動・信念の特徴と法則性の解明を可能とするデータを取得した。第2に、予算の制約上ABS調査と切り離してマスメディア・PC・モバイル通信機器のシングルソースデータ(テレビ、PCモバイルの全利用データを客観的に計測する)サンプルへの1年間隔のパネル調査を2回実施し、ソーシャルネットワークと価値意識の相互連関分析・因果分析がより明確になるデータを取得した。

研究成果の概要(英文)：This project aimed at elucidating the embeddedness of one's value structure within cultural context, social network context, media environment, and political institutional setting. It originally planned to conduct a panel survey on Asian Barometer 4 (ABS4) and social network study. However, due to the budgetary constraint, ABS4 was finished as an independent survey on Japanese as a comparative data with 13 other East/South East Asian countries. Also we conducted an internet 2-wave panel survey using a random sample of Japanese who agreed to be respondents with "single source data" (their TV media exposure and PC/mobile uses are measured automatically). In the survey, we explored ego-centered social network and social media use within the network as well as values and social capital related questions, then matched with the single source data. This combined data enables us to investigate embedded nature of human thought and conduct from mutually compensating viewpoint with ABS4.

研究分野：社会心理学

キーワード：政治文化 インターネット マスメディア 民主化 社会参加 政治参加 ソーシャルネットワーク
ソーシャルメディア

1. 研究開始当初の背景

人間の行動には、能動的かつ主観的に周囲の他者や環境に働きかけていく側面と、周囲の他者が形作る対人的な環境の制約、社会文化的な個人の位置による制約、また利用可能なメディアがもたらす情報環境的な制約によって主観的に意識する／しないに関わらず行動が規定されていく側面とがある。本研究は、人間を取り巻くこうした複合的な制約に関し、政治文化の国際比較研究、現代のインターネットを含めた情報環境のダイナミックな変化と対人的なコミュニケーションの相互関連の研究、という2つの文脈において精緻化された検討を進める。

社会調査データによる国際比較研究は、アーモンドとヴァーバによる記念碑的な『現代市民の政治文化』(1963)を嚆矢として50年にわたる歴史がある。経済指標であるGDPなどと同様の形で、世界規模の指標・データを取得し、年次変動が世界的に公表されるまでに発展している。国際規模の比較の試みは、人々の行動や思考の背後にある制度や文化のもたらす制約性を明らかにするとともに、そうした制約や限定を越えて共通してみられる人間行動・信念の特徴と法則性の解明を可能にしている。本研究の前半はこれをアジアパロメータ国際比較調査によって明らかにする。

他方、人々の行動や思考の制約性は、ソーシャルネットワークやメディア利用といった環境的要因の効果をより厳密に計測し、マルチレベルで検討することでより明確になる。この種の研究の方向性は、これまで単独のメディア利用についてのみ検討される強い傾向があった。実証的には1940年代まで遡るマスメディアのもたらす情報環境の研究、21世紀直前から続くインターネット内の個別のブログやソーシャルメディアのインパクトあるいはニュースサイトの研究、また日常的なコミュニケーションで用いる媒体の研究など、大きく発展しながらも基本的にはそれぞれが分散した研究として存在するのみで、これらを統合した研究は看過され、また研究不可能でないにしても非常に困難だとされてきた。しかしながら人間の行動や思考は、複合的なメディア利用がもたらす統合的な条件下で生じるものであり、この統合的な状況を総括できるデータがあってこそ、精緻に分析可能なものとなる。本研究の後半は、「シングルソースデータ」(下記で説明)によるメディアインパクト調査によって、このことを試みる。

2. 研究の目的

本研究は、市民の持つ政治的・社会的価値観の構造が、その市民の位置するソーシャルネットワークの中で、いかなる形で社会関係性の関数・情報環境的な関数・制度要因的な関数・文化要因的な関数として埋め込まれているかを、新規に複合的・体系的なデータを

取得することで明らかにし、上記4種の関数の相互関連を理論的・実証的に解析することを目的とする。

具体的には第1に、東・東南アジア14カ国・地域で実施されるアジアパロメータ国際比較調査第4波の日本データを取得し、比較制度・文化的な枠組内で日本人の位置づけを示す。第2に、日本人対象者に対しソーシャルネットワーク調査をパネル調査として実施し、日本人の価値観の構造がいかに社会関係性の中に埋め込まれているかを、ネットワーク内他者との地位関連および複合的メディアコミュニケーションについての質問紙調査、さらに客観データの計測を通じて検討する。つまりシングルソースデータの計測者本人に対するインターネット調査を通じて、人間行動の社会的埋め込まれ性を人間の意識とメディア利用の客観データとから検討する。

3. 研究の方法

第1に、2014年度の予備調査・国際会議を経て、アジアパロメータ国際比較調査(ABS)第4波の日本全国調査を2015年度に実施した。ABS調査の日本調査は、本研究代表者を中心とする研究グループが東アジア、東南アジア14カ国にわたるデータの取得と分析と連携する形で続けてきた。今回の第4波調査もまた全国の代表性あるサンプルを用いて他国と統合して比較分析できる機会を得た。この調査によって、アジア内での4回にわたる変化の様相が検討できるほか、日本国内のアジア的価値観の変容に関しても貴重なデータを取得できる機会となった。しかしながら研究経費が当初申請より大幅に減額となったため、当初予定の規模を縮小せざるを得ず、オムニバスの全国調査として実施した。主たる項目は次の通りであった。

- ・アジア的価値観の構造(政治や社会倫理、社会関係に関する項目群)
- ・民主主義の意味認識。民主主義や民主化への賛否・支持。他の体制との比較優位性認知
- ・制度への信頼(選挙制度、議会、政党、中央官庁、地方政府、新聞、テレビ等)
- ・政治参加(投票、請願、献金、デモ参加経験等)、社会参加(各種団体・組織参加)

この面接調査は、調査票とともに中央調査社に委託し、層化された全国210地点から2500サンプルを系統抽出した対象者に対して2016年1月下旬に実施された。回収数は1081で回収率は43.2%であった。サンプリング困難な地点が続出し、今後の全国調査に対しても教訓を残したが、回収率は近年の水準の規模は達成した。

第2に、2015年度データおよび調査仕様の精査・検討を行った結果、当初予定していたABS調査との連動ではなく、マスメディア・PC・モバイル通信機器のシングルソースデータサンプルへの1年間隔のパネル調査を2回実施することで、目的とするソーシャル

ネットワークと価値意識の相互連関分析・因果分析がより明確になると判断したため、学術振興会の了解を得た上で、シングルソースデータを整備しているインテージ社に調査実査を委託し、2016 - 2017 年度の 2 年にまたがる調査を実施した。

この調査では、調査対象者の日常のメディア行動に関するシングルソースデータの上に立ったインターネット調査データを取得した。シングルソースデータとは、調査対象者の日常のメディア接触行動の中心である、テレビ接触、インターネット接触(PC・モバイル双方)に関し、一定期間具体的な番組名、インターネット接触先の URL、検索語が全て取得できるデータを指す。こうした調査対象者に対し、本研究ではインターネット調査によって、さらに重要なソーシャルネットワーク、対人コミュニケーション関連の質問文、価値観や寛容性・信頼意識に関する質問文を提示し、回答を得て、調査対象者の日常のコミュニケーション、行動、思考の全体像をデータとして取得した。

シングルソースデータは日常視聴するテレビ機器にデータ取得用の特殊機器を設置し、PCとモバイル機器の双方にも接触先 URL や検索語を専用アプリケーションのインストールによって記録することに同意した調査対象者から得られるものであり、また同時にこの対象者は質問紙によるインターネット調査を受けることに同意している。このことによって、テレビ、PC、モバイルの全ての情報行動の全体データが得られ、同時にこの対象者の価値観や対人ネットワークとの相互連関を明らかにしうる。こうしたデータに基づく研究は希有であり、またアジア的価値観のもたらす垂直性志向・同質性志向と情報行動の関連性の検討によって文化比較研究の側面を持ち、ABS 調査との対照可能となっている。

より具体的には、人々の実際の情報行動の全体と結びつけられるデータを取得するため、シングルソースデータを整備している調査会社との契約に基づき、データ提供の仕様と守秘義務・個人情報保護の確保について契約を交わした上で、このシングルソースデータ対象者に対して、質問紙調査をインターネット調査として実施した。調査はインターネット調査会社の web サイトを通じて実施され、回答の匿名性が保証されている。最終のデータはシングルソースデータと調査回答を紐付けし、地域の人口構成でウェイト付けしてまとめられた。このデータを 2 年度にわたり取得した。

主たるデータと質問項目は、テレビ番組接触データ、インターネット接触 URL・検索語(PC、モバイル) 質問紙調査(対人ネットワーク他者設問、ネットワークサイズ、利用情報接触機器、ネット発信行動、アジア的価値観バッテリー 2 種、政治参加・政治行動、社会参加、信頼観、互酬性、寛容性 2 種、パース

ペクティブテイキング尺度、ポジション・ジェネレータ尺度、制度信頼、幸福感、生活満足度、消費行動関連設問、デモグラフィック要因)であった。

サンプル：インテージ社のシングルソースデータ提供者からサンプリングした。すなわち、それぞれが代表性を持つインテージ社のテレビモニタ全 6900、PC モニタ全 21500、モバイルモニタ全 13300 の重複部分のパネルモニタを母集団とした。

調査の第 1 波は、調査票タイトル「ご自身の価値観や考え方に関するアンケート」として調査期間 2017/02/14 ~ 2017/02/20 に実施した。上記のパネルモニタ該当者から 2360 s をサンプリングし、回答を依頼した。有効回答数は 1437 s、回収率は 60.9 %であった。

調査第 2 波は、調査期間を 2018/02/23 ~ 2018/03/07 として、前年に 2 年度目調査に応諾可能と回答した対象者 1396 s(前年回答者の 9 割)に回答を依頼した。有効回答数は 1095 s、回収率 78.4 %であった(有効回答数 / 依頼数)。

なおシングルソースデータについては、調査実施の前後 60 日間(1 月 15 日開始)のテレビ、PC、モバイル利用の全データを 2017 年、2018 年ともに取得した。これらのデータは対象者自身の調査回答と紐付けされた。

4. 研究成果

(1) アジアンバロメータの第 4 波調査の予備的知見

インターネットを用いて政治や政府に関して情報をチェックする人々は 4 割近いが、意見表明をする人々は 5 %に満たず、近年の政治参加の低下と軌を一にしている。一方で、日本の政治体制や民主主義への支持は強いながらも(図 1 に例示)政治の運営者たる政府や政治家に対する支持は高いとは言えない。アジア的価値に関しては 21 世紀に入ってから 15 年間で大きな変化はなく(図 2 と図 3 に例示)個の利益よりも集団の利益を優先する一方、国益の重視は低く、また長期的な志向性の強さと対立回避傾向の強さは強靱である。

図 1

Democracy preference with 3 questions (1)

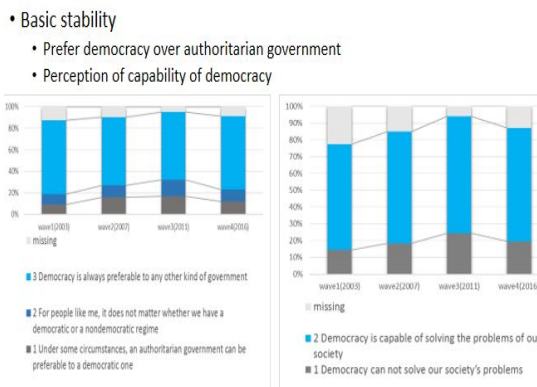


図 2

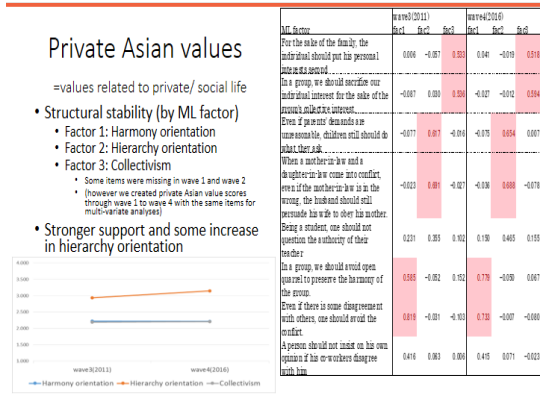
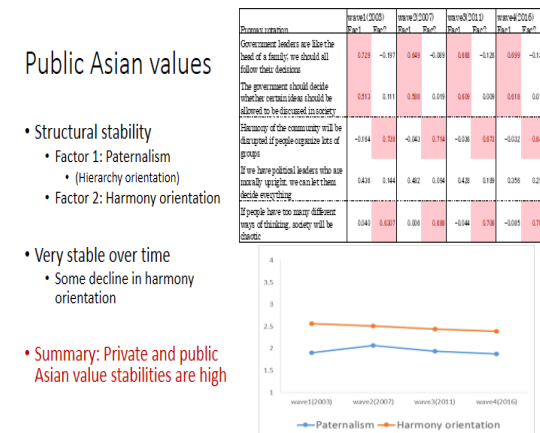


図 3



今後、他 13 カ国のアジアンバロメータデータと結合ファイルを作成した上で、日本人の民主主義観の社会的埋め込まれ性を検討する。

(2) シングルソースデータとインターネット調査連動データの予備的知見

本実績報告執筆時点では第 2 波のパネルデータが納品されて未だ 1 ヶ月以内であるので、第 2 波については基礎的な整備をしている段階である。

第 1 波データでは質問紙調査の分析において、個人のソーシャルネットワーク内の重要他者、政治的会話他者、仕事関連他者の詳細を各最大 5 名測定し、それぞれがいかなるメディアコミュニケーションを行い、その中でアジア的価値観を反映した垂直的・同質的コミュニケーションがどのように機能するのか、また客観的メディア利用といかなる相互関係にあるのかを検討中である。

一例として、ソーシャルネットワーク内の他者とエゴ（回答者本人）をつなぐメディアのパターンは人々の間で 5 つにクラスタリング化しており、それぞれにおいて上下関係・対等関係が持つ意味が異なることが、右の表 1 と表 2 から見て取れる。

こうした日常的なコミュニケーションの中に埋め込まれた垂直的な対人関係が、いかなる形でメディア利用のパターン、具体的な

利用内容と相関し、それが対人関係に埋め込まれた個人の行動・志向性といかに関連するかを検討し、かつパネルデータを用いて、1 年にまたがる対人的コミュニケーション内のメディア利用のダイナミクスを検討していくことが今後の課題である。

表 1

ネットワーク他者をつなぐメディアのクラスターによる差異 (ハイブリッド・クラスタリング手法による)

クラスタリングのための元データ分布

ネットワーク他者との利用メディアクラスター	パーセント	Q28num#					計: SNS(FB)	計: SNS(TW)	計: SNS(LINE)	計: SNS(その他)	平均値
		Q28num#1	Q28num#2	Q28num#3	Q28num#4	Q28num#5					
1. 対面中心	342	28.8	5.31	0.72	0.71	0.06	0.05	0.73	0.01		
2. 対面・電話・メール	266	23.2	5.51	4.22	4.19	0.28	0.05	0.98	0.03		
3. 対面・LINE	228	19.9	5.23	2.64	0.71	0.17	0.11	4.33	0.12		
4. 電話・メール・(LINE)	50	4.4	4.66	3.18	3.68	0.10	0.02	1.82	0.00		
5. LINE中心	261	22.8	3.64	1.75	1.44	0.21	0.10	2.37	0.06		
合計	1147	100	4.93	2.25	1.81	0.17	0.07	1.93	0.05		

ネットワーク他者との利用メディアクラスター	netimp	netpol	netwk	ネット	netnum	ネット
者数: 重要	者数: 政治	他者数: 仕事	他者数: 全体	他者数: 全体	他者数: 全体	他者数: 全体
1. 対面中心	2.67	1.45	1.77	5.11		
2. 対面・電話・メール	3.07	1.86	1.82	5.89		
3. 対面・LINE	3.17	1.36	1.32	4.77		
4. 電話・メール・(LINE)	1.84	1.56	1.32	2.28		
5. LINE中心	3.45	1.82	1.72	6.71		
合計	3.00	1.62	1.66	5.47		

表 2

ネットワーク他者との利用メディアクラスター	Q30num#	Q30num#	Q30num#eq
上数	目	目	目
下数	計: 対等数	計: 対等数	計: 対等数
1. 対面中心	1.96	1.01	2.50
2. 対面・電話・メール	2.03	1.03	3.02
3. 対面・LINE	1.58	0.82	3.16
4. 電話・メール・(LINE)	1.28	1.06	2.38
5. LINE中心	1.67	0.94	2.76
合計	1.81	0.97	2.80

シングルソースデータの整備に関しては、大量のデータとともに、データの加工の水準のあり方について議論を重ねており、表 3 に見るような複数の水準のデータのどのレベルで調査の回答と紐付けして利用可能な形態に整備していくかを検討している途上にある。

表 3

- サイトの加工水準
- PC、MB 共通のローデータ記録として、アクセスサイトの URL がある。
- サイトの加工水準としては以下が考えられ、下に行くほど解像度が低下する。
- フルアドレス (<http://domain.sample.co.jp/directory/index.html>)
 - 例) どの具体的なページに、どの程度アクセスしていたか (と、個票変数との関連について) が分析可能
 - フルドメイン名 (domain.sample.co.jp)
 - 例) Yahoo!ニュースを見ていた程度、の影響の分析可能
 - ドメイン名 (sample.co.jp) : サイト名+国・種別ドメイン
 - 例) Yahoo!をどの程度使っているのか分析可能 (ニュースと知恵袋は区別できない)
 - サイト分類によって URL を大別した種類 (ニュースサイト、ソーシャル...)
 - 例) どのタイプのサイトに、どの程度アクセスしていたかの分析が可能

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計0件)

〔学会発表〕(計3件)

Ikeda, K., Takemoto, K., & Yasuda, Y. (2016) ABS Japan study 4-waves: Asian value stability in Japanese context, Asian Barometer Survey Conference, National Taiwan University, Taipei, July 8th, 2017

Ikeda, K. & Yasuda, Y. (2017) Social Capital in Asian Context, Asian Barometer Survey Conference, National Taiwan University, Taipei, July 8th, 2017

池田謙一(2017)シングルソースデータを用いたメディア利用分析、ソーシャルメディア・ワークショップ SMWS、ソーシャルネットワーク研究所・京都
〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

取得状況(計0件)

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者

池田 謙一 (Ken'ichi Ikeda)
同志社大学・社会学部・教授
研究者番号：30151286

(2)研究分担者

安田 雪 (Yuki Yasuda)
関西大学・社会学部・教授
研究者番号：00267379

柴内 康文 (Yasufumi Shibanaï)
東京経済大学・コミュニケーション学部・教授
研究者番号：60319457

(3)連携研究者

(4)研究協力者

ユンハン チュー (Yun-han Chu, 国立台湾大学・中央研究院・教授)

ラリー ダイヤモンド (Larry Diamond, スタンフォード大学・フーバー研究所・教授)

アンドルー ネイサン (Andrew Nathan, コロンビア大学・政治学科・教授)

ショーン リッチー (Sean Richey, フルブライト研究員 (東京大学)・ジョージア州立大学・政治学科・准教授)